

2026年5月21～23日に第69回日本糖尿病学会年次学術集会在中之島の大阪国際会議場で開催されました。何より印象に残ったシンポジウムは“糖尿病診療を変えるテクノロジーの衝撃”つまり、最新の医療機器がもたらす糖尿病治療の進歩についての講演です。当科でも積極的に取り入れているリアルタイム持続血糖測定器([糖尿病センターだより9号](#))やインスリンポンプ治療([糖尿病センターだより19号 part1, 24号 part2](#))のその先のテクノロジーをご紹介頂きました。



まずは大御所 Ohad Cohen 先生より“自動インスリン注入療法の進化”インスリンポンプ治療の Real World Data をご紹介頂きました。



そして山川孝一先生による“非侵襲血糖値センサー”皆さん覚えていますか![糖尿病センターだより21号 part2](#)でご紹介したライトタッチテク

ノロジー株式会社の社長さんです。山川先生の理路整然とした落ち着いた話しぶりの中に、“指先を穿刺する負担なしに血糖値を測定できる世の中にしたい”という強い情熱を感じました。素晴らしい講演に拍手が鳴り止みませんでした。



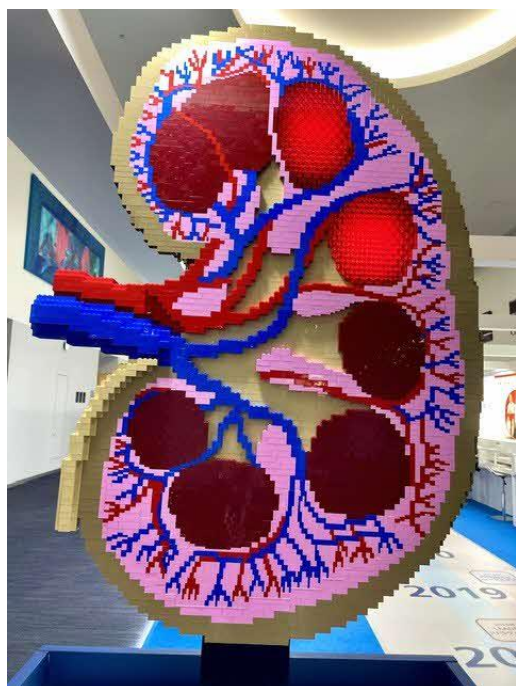
こちらは主任部長と Ben Nash 先生の対談の様子です。Nash 先生はオーストラリア人の糖尿病・内分泌内科医で、ご自身も1型糖尿病でインスリンポンプ治療をされておられる方です。主任部長、インスリンポンプ治療で日頃感じている疑問

や苦慮している点について Nash 先生にたくさん教えて頂きました。特に “Doctors tend to focus on state-of-the-art medical equipment, but you should focus on the patients who are living their lives with that equipment.”（医師は最先端の医療機器に集中しがちだが、その医療機器を使って生活している患者さんに集中しなさい。）本当にその通りです…。当

たり前の事なんです、先進的な医療機器のテクノロジーを
目の前にすると、医師ってついそちらに目を奪われてしまっ
て💧…。「患者さん中心の医療」を提供する大事さを改めて
感じさせられた素晴らしい教えでした。



学会会場って、本屋さん(医学書専門)
が来るんです。医学書って結構高いので
普段はためらうのですが、学会の雰囲気
に飲まれて“あれもこれも勉強しなきゃ”と、
ついつい買ってしまふ主任部長
です(笑)。同じような全国の医師のため
に宅配サービス付きなんです(笑)。



←見てください！腎臓の断面の巨大レ
ゴです。↓心臓のレゴもありました。



糖尿病治療薬である SGLT2 阻害剤や GLP-1 受容体作動薬の腎/心保護作用を表現しているんですね。

学会最終日の夕方、主任部長は「当院のインスリンポンプ AID 治療の臨床成績について」口演発表し、3 日間で予定していたすべての学会活動を無事にやり遂げることができました。頑張っておられる全国の先生方のお話を聞き、実際に会話し、“みんな頑張ってるねんな。私も頑張らな”背中を押してもらえる、それが学会です。若くて自分に自信が持てなかった頃は、学会に参加する度に焦りと不安が増して苦しかったのですが、今は勇気と自信と明日へのパワーが貰える場所へと変わってきました。“さあ、また一年頑張ろう”主任部長、この北河内地域に“より良い糖尿病治療”を提供するために、踏ん張っていきたいと思います。

以上、大阪中之島より「第 69 回糖尿病学会に行ってきました」の現場レポートでした！ 来年もお楽しみに❤️